

# 普通NPOから認定NPOへ

そのための必要条件が3,000円以上の寄付者、年間200名(社)以上です。

## 認定NPOになったら

- 寄附金控除が受けられ、寄付者の税金(所得税、住民税)が安くなります。
- 社会的存在感が一挙にアップし、その分、きものを世界遺産にするための活動がしやすくなります。

NPOでは「きものを世界遺産へ」を目指して、様々な広報活動を行っています。  
みなさまの継続的なご寄付をお願いいたします。

## 寄付の方法

クレジットカードで専用サイトから

右記のQRコードからどうぞ。



郵便局の窓口・ATMから

同封した郵便振替払込書をご利用ください。

銀行振込の場合は

▶三井住友銀行

東京中央支店(支店番号 015)

普通預金 口座番号 8905660

名義人 トクヒ)キモノオセカイサンニスルタメノゼンコクカイギ

▶ゆうちょ銀行

店名 (019) ゼロイチキユウ

当座預金 口座番号 0364795

名義人 トクヒ)キモノオセカイサンニスルタメノゼンコクカイギ

## ご寄付 ありがとうございます。

2024年11月15日から2025年2月21日の期間中、ご寄付いただいたのは次の方々です。敬称略、あいうえお順、お名前の横は寄付回数です。

※同姓同名の方がおいでの場合、回数表示がダブっている可能性があります。また寄付をいただいたにお名前がない場合は、編集上のミスになります。万が一このような事例がございましたら、お詫びいたします。(ご希望があれば、追加掲載いたしますのでお申し出ください。info@omotenashi.or.jp) 匿名を希望された方は掲載しておりません。

相原 幸恵	大倉 源次郎	関谷 達郎	政井 千香子
青木 恭子	太田 和枝	高橋 佳代	増田 明子
熱田 幸江	片桐 美保子	チョウ ロキ	満岡 美菜子
伊佐 孝子	加藤 晴幸	西楨 理江	宮本 幸子
石渡 久美子	川合 あけみ	服部 愛子	渡邊 方子
板爪 透	木谷 茂子	日置 敬子	和知 孝子
伊藤 玉美	佐々木 春代	平田 淳	
猪岡 光江	鈴木 智記(3回)	藤江 綿子(3回)	

〈訂正とお詫び〉

前号 四季誌 和装家 21ページ「寄付者のみなさまへ」のお礼の中でお名前の表示に不行き届きとミスがありました。ここで訂正し、お詫びします。なお、お名前は記事中と同じく敬称略とさせていただきます。

ふきえひろみ → 笛木 弘美

きものを世界遺産へ

## 俺の履歴書



吉田重久

第四回



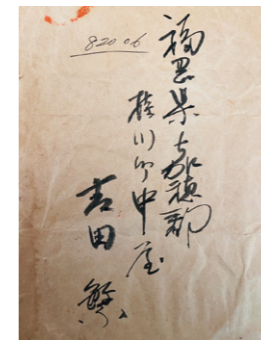
世の中の仕事は、大きく分けて、売るか、作るか、だと私は思います。私は、その「売る」を選択しました。何でもいから売って利益を上げる、それに集中しました。私の家系ですが、商売をする家系ではありませんでした。私と、日本和装トレーディング(ベトナム法人社長)の藤井健太郎(従兄弟)の祖父、吉田繁は、九州の小さな町の町長から、飯塚市(青春の門の舞台になった町)の市長を務めた人でした。朝から黒塗りの車が迎えに来て、祖父は鏡の前でヘアースタイ

ルを整え、祖母、数名の女中と使用人から見送られて出勤するような人でした。あの時代に明治大学卒でしたから、それなりの家だったと思います。私は、物を売ることに専念し、たった一人で始めた小商売でした。しかし、何を売るか?です。何でもいいと言っても、何もない中に思いついて、叔父さんの宝石店(宝石卸小売)へ行き、その宝石を借りて知人に売る、その売ったお金を回収して入金し手数料をもらう方式で、毎日、売り歩きました。当時は、物品税(い

わゆる贅沢税)という税金があったので、売れた金額を申告する制度(物品税)だったので、そうしていました。その他、舶来品を扱っていた知人の卸売り会社へ出かけていき、その商品を借りて持ち出し、知り合いのところで買ってもらう、その知人から紹介を受けてお客様になってもらい購入いただく、その差額で生計を立てていました。それは、それは、とても上手くいきませんでした。しかし、ダメですね。若いのに小銭を持つと、ついつい調子に乗る、海外で仕入れたいという気持ちになり、父に一度だけ通訳として同行してもらい香港へ仕入れに行くようになりました。当時は、「世界の一流品図鑑」という本があつて、各商品の値段(日本での価格)

も掲載され、とても便利なものでした。その本を使って商売をさせてもらったのです。つまり、受注仕入れ方式です。注文を集め、月に一回程度の仕入れに行く、それを持ち帰って納品するというやり方でした。それなりの利益も上がり、

祖父と祖母、祖父は福岡県の第五代飯塚市長を務めました。



祖父、吉田繁の葬儀



当時の商売を助けてくれた「世界の一流品図鑑」

毎晩のように繁華街に繰り出しては、夜遊びもしました。22歳、23歳程度の若造が小銭を持つといけませんね。調子に乗る、もっと儲けようと、多くを仕入れて計画が外れて火の車へ突入しました。ここからしばらくは借金地獄でした。

## 小銭を持った若造は火の車へ